服部 和德*3

35 度開先面に融合不良を有する接合部の繰返し載荷実験

一その5 フランジ厚・フランジ幅の影響 実験計画および材料試験一

正会員

溶接欠陥

開先面	融合不良
繰返し載荷	板厚・板幅

1.はじめに

溶接欠陥が継手の強度や伸び能力を低下 させることは知られており、筆者等はこれ まで、様々な欠陥の長さや高さが施された 試験体の繰返し曲げ載荷実験をおこない、 その欠陥が変形能力にどのように影響を与 えるかについて検証を実施している¹⁰²⁾。 既往の試験体¹⁰²⁾は、フランジ厚 25mm、フ ランジ幅 100mm の組立組立 H 形鋼のみの 限られた条件下である。そこで、本研究 は、板厚や板幅をパラメータとし、溶接欠 陥が継手の変形能力に与える影響について 検討を実施した。

2.試験体

試験体一覧(既報も含む)を表1 に示す。
試験体形状を図1に示す。試験体
は、35 度開先面に発生した融合
不良を想定した溶接欠陥を挿入
した溶接組立 H 形鋼である。フ
ランジ厚は16mmと25mmとし、
フランジ幅は64mmと100mmの
2 種類としている。フランジおよ
びウェブの材質はSN490Bとして
いる。梁せいは125mm、梁ウェ
ブの板厚は12mmである。本研究
では、溶接はおこなわず、欠陥
は放電加工を用いて人工欠陥に
より製作した。

3.試験方法

実験装置は 1000kN アムスラー 型油圧万能試験機を用いた。図2 に示すように試験体と加力ビー ムをボルトでつなぎ、載荷点ビ ームを載せ2点載荷として弾性範 囲内で正負各1回行い、全体中央 変位δが表2に示す全塑性耐力時 の変形量δpを基準変位とし、δ pの2倍、4倍、6倍、8倍につい



優也*1

陽祐*4

○成川 宗川 見波

中野

進*2

達也*5

図1 試験体形状

表1 試験体一覧

	試験体	欠陥	表面・	欠陥	板厚	板幅	欠陥寸法(mm)		欠陥 断面積A	フランジ 断面積Af	欠陥率 。α	フランジ の降伏比	
	No.	位置	裏面	角度	mm	mm	高さ	長さ	幅	mm ²	mm ²	%	%
	1				25	25 100	1.2	100	0.4	120	2500	4.80	
	2	中央		35°			2.5	28	0.4	70	2500	2.80	
	3						5	14	0.4	70	2500	2.80	
	4		表面				5	28	0.4	140	2500	5.60	74
27	5						10	23	0.6	230	2500	9.20	
y IJ	6						20	38	1	760	2500	30.40	
Ì	7						25	10	1	250	2500	10.00	
ズ	8			250			2.5	14	0.4	35	2500	1.40	
1	9		+				5	7	0.4	35	2500	1.40	
	10	서비 수7					5	14	0.4	70	2500	2.80	
	11	「市市」	衣田	33			10	11.5	0.6	115	2500	4.60	
	12						20	19	1	380	2500	15.20	
	13						25	5	1	125	2500	5.00	
	14		表面	35°			10	10	0.6	100	2500	4.00	
シ	15	端部	表面	0°			10	10	0.6	100	2500	4.00	
リー	16	レンジェンジョン レンジェンジョン レンジェンジョン レン レン レンション レン レン レン レン レン レン レン レン レン レン レン レン レン	底面	0°		10	10	0.6	100	2500	4.00	74	
ズ	17		表面	35°			10	20	0.6	200	2500	8.00	/4
2	18		表面	0°			10	20	0.6	200	2500	8.00	
	19		底面	0°			10	20	0.6	200	2500	8.00	
	20						6.4	6.4	0.8	40.96	1024	4.00	
	21			表面 35°	16	04	10	10	0.6	100	1024	9.77	(9
v IJ	22	1				100	8	8	0.8	64	1600	4.00	68
) ズ 3	23	端部	表面				10	10	0.6	100	1600	6.25	
	24	-				~	8	8	0.8	64	1600	4.00	
	25			25	04	10	10	0.6	100	1600	6.25	67	
	26					100	10	10	0.6	100	2500	4.00	
							シー	リーズ1お	よびシリ	ーズ2は、	文献1および さ フニ、	び文献2に	て報告済み。

欠陥断面積:欠陥高さ×欠陥長さ、フランジ断面積:板厚×板幅 欠陥率:欠陥断面積/フランジ断面積×100

Cyclic loading test of joints with lack-of-fusion defect at 35 degrees groove face Part5: Influence of flange thickness and flange width Test plan and material test

-7---

Narukawa Yuya, Minami Susumu, Hattori Kazunori, Sokawa Yosuke and Nakano Tatsuya て正負交番載荷を各2回ずつ実施した。本実験では、断面 形状(板厚および板幅等)が異なるため、事前予備解析 を実施し、同塑性率を与えた場合、試験部(欠陥近傍)には、 ほぼ同程度の作用ひずみが生じることを確認している。 試験体温度は 0℃と設定した。ドライアイスで冷やしたエ タノールをビニル袋に入れ試験板フランジに密着させ、 CTOD 試験方法 ³⁾を参照して、板厚 16mm は 10 分、板厚 25mm は 20 分間温度を保持した後、冷却しながら載荷を 行った。

4.測定方法

変形の測定は、変位計を図2に示す5箇所に設置して行った。全体中央変位δは以下の式で算出し、この値に基づき載荷の変位の制御を行った。荷重は、試験機の荷重計により測定した。温度は試験体フランジの表面および 人工欠陥の切欠き底に熱電対を取り付け測定した。

 $\delta = D3$ - (D1+D5) /2 ...(1)

5.素材試験

表3に機械的性質一覧(素材試験結果)を示す。**図3**に、 梁フランジの応力—ひずみ関係の一例を示す。引張試験 片は、JIS Z 2241:2010(金属材料の引張試験方法)に示され る 1A 号試験片とした。試験温度は 0℃としている。シリ ーズ 3 の降伏比は 67%もしくは 68%であり、シリーズ 1 およびシリーズ 2 に比べ降伏比が低い鋼材であった。

表4 にシャルピー衝撃試験結果一覧を示す。0℃シャル ピー吸収エネルギーは、238J(シリーズ1)、228J(シリーズ 2)、154J(シリーズ3:板厚16mm)、170J(シリーズ3:板厚 25mm)であり、シリーズ3は、シリーズ1および2に比べ 若干低い値であるが、総じて高めの値であった。

6.まとめ

その5では、実験計画ならびに供試材の材料試験について報告した。実験結果および考察について、その6に示す。

【参考文献】



1) アルムニフ サミル,服部和徳,見波進,笠原基弘:35

*1 東京電機大学 大学院 理工学研究科修士課程 大学院生

- *2 東京電機大学 理工学部 建築・都市環境学系 教授・博士(工学)
- *3(一財)ベターリビングつくば建築試験研究センター・博士(工学)
- *4(一財)ベターリビングつくば建築試験研究センター・博士(工学)
- (元宇都宮大学 大学院生)
- *5 宇都宮大学 地域デザイン科学部 准教授・博士(工学)

度開先面に融合不良を有する接合部の繰返し載荷実験(その1~2),日本建築学会大会学術講演梗概集,A-1, pp.1043-1046,2015.9 アルムニフ サミル,服部和徳,見波進:35 度開先面に

- アルムニフ サミル,服部和徳,見波進:35 度開先面に 融合不良を有する接合部の繰返し載荷実験(その3),日本 建築学会大会学術講演梗概集,A-1,pp.1201-1202,2016.8
- 3) 日本溶接協会:WES1108 亀裂先端開口変位(CTOD)試験 方法、6.2.2 試験片の温度, p.12,2016.1

表2 全塑性耐力時の変形量 δp

ANEA (Las r	フラン	σy	Ι	Z _p	Mp	δ				
訊駛1本№.	厚さ(mm)	幅 (mm)		mm						
20,21	16	64	264	667	122	44.3	5.09			
22,23	16	100	304	1011	184	67.1	5.49			
24,25	25	64	250	838	165	57.6	5.48			
26	25	100	350	1297	255	89.1	6.03			

σy:下降伏点、I:断面2次モーメント、Zp:塑性断面係数
 Mp:全塑性モーメント、δp:全塑性モーメント時の変形量

表3 機械的性質一覧(素材試験結果)

211. 7	鋼材	板厚	σ_{yH}	σ_{yL}	σ_{u}	EL.	Y.R.
シリース		mm	N/mm ²	N/mm ²	N/mm ²	%	%
シリーズ1	SN400D	25	377	362	507	31	74
シリーズ2		25	401	399	542	28	74
シリーズ3	311490D	16	366	364	538	29	68
		25	355	350	532	30	67

 σ_{yH}:上降伏点、σ_{yL}:下降伏点、σ_u:引張強さ

 EL::伸び、Y.R.:降伏比(σ_{yH}/σ_u×100)



図3 応力—ひずみ関係(梁フランジ)

表4 シャルピー衝撃試験結果一覧

シリーズ	板厚	_v E _o	$_{v}B_{o}$	_v T _e	_v T _s	vEshelf		
		J	%	°C	°C	J		
シリーズ1	25	238	7	-51	-61	263		
シリーズ2	25	228	10	-50	-43	245		
211. 72	16	154	30	-18	-16	193		
29-23	25	170	20	-41	-26	183		
_v E ₀ :0℃吸収エネルギー、 _v B ₀ :0℃脆性破面率								

D1~D5は変位計を示す。

、T.:エネルギ遷移温度、、T.:破面遷移温度

vEshelf:上部棚吸収エネルギー

- *1 Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Tokyo Denki Univ.
- *2 Prof., School of Science and Eng., Tokyo Denki Univ., Dr. Eng.
- *3 Tsukuba Building Test Laboratory of Center for Better Living, Dr. Eng.
- *4 Tsukuba Building Test Laboratory of Center for Better Living, Dr. Eng. (Former Graduate Student, Utsunomiya Univ.)
- *5 Associate Prof., Faculty of regional design, Utsunomiya Univ., Dr. Eng.
- -8-

図2 試験体セットアップ